

そうかいいちゆ 双開一結

～双方に開き
一つに結ぶ住まい～



観光客

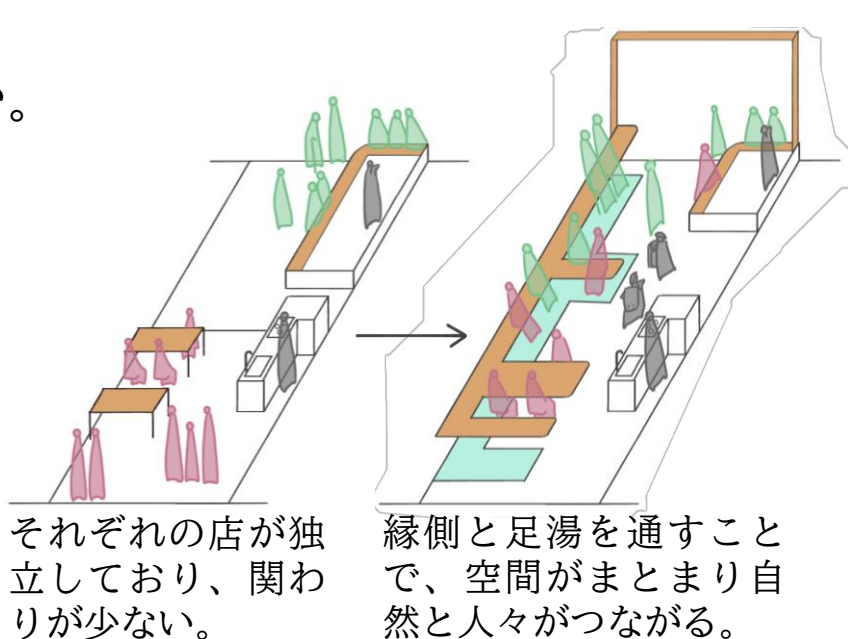
住人

街に住む人

コンセプト

温泉・トロッコ列車・スキー場などがある自然豊かな温泉街、宇奈月に住む。住まいは、観光客と街に住む人々の新たなつながり方を生む長屋。二方向に開き、駅前通りは観光客に、裏通りは街に住む人々に開かれる。二種類の人たちを結ぶのは、「つなげる縁側」と長屋の住人。

二方向に開かれた長屋の中は、一本の縁側でつながる。一階の店舗から上階の住居まで、縁側が椅子から机になり、手すりとして階段を登り、長屋の住人のための机やベッドになる。長屋の住人と街に住む人々、観光客がこの長屋でどこにいてもつながれる。建築を介した人と人の新たなつながりを提案する。



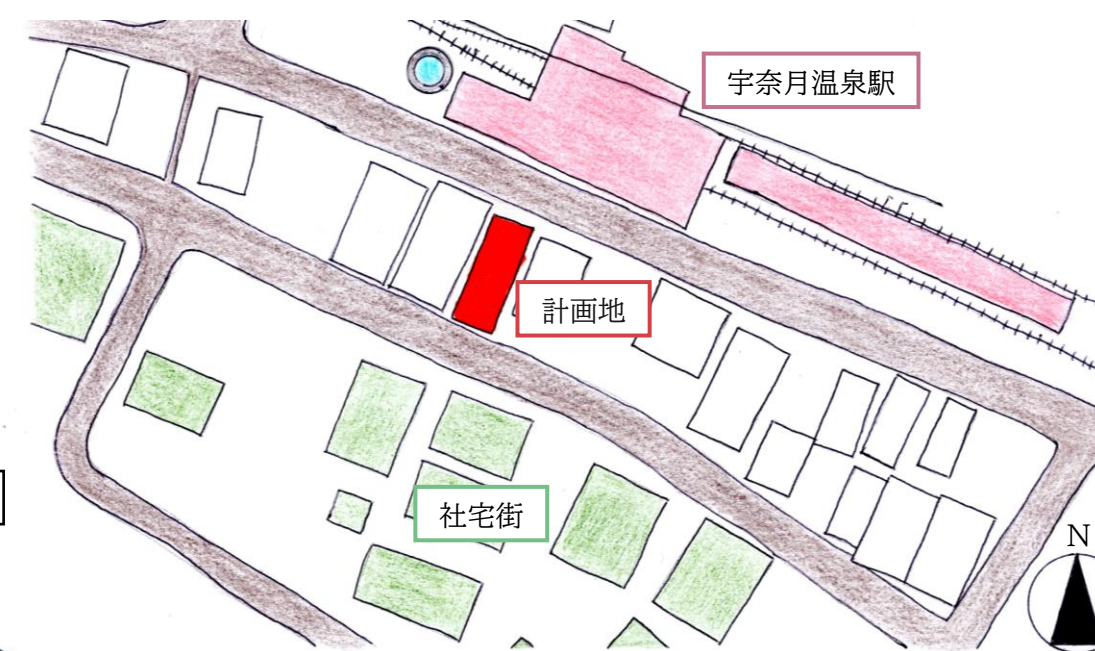
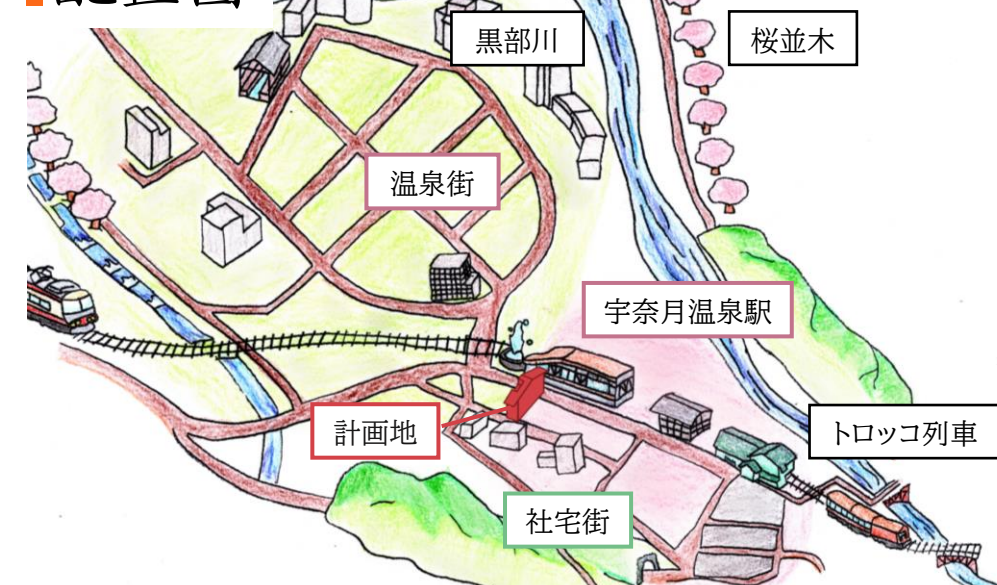
それぞれの店が独立しており、関わりが少ない。

縁側と足湯を通すことで、空間がまとまり自然と人々がつながる。

対象敷地

山々に囲まれた宇奈月温泉駅に降り立つと、自然豊かな温泉街が広がっている。敷地は駅前のお土産通りにできた空地。駅側は観光客で賑わっており、反対側は町に住む人々の日常が営まれている。しかし、近年は温泉宿やお土産屋、食事処が減っている。観光客は、温泉宿で温泉から食事までを完結させてしまい、街に繰り出す機会は少ない。

配置図



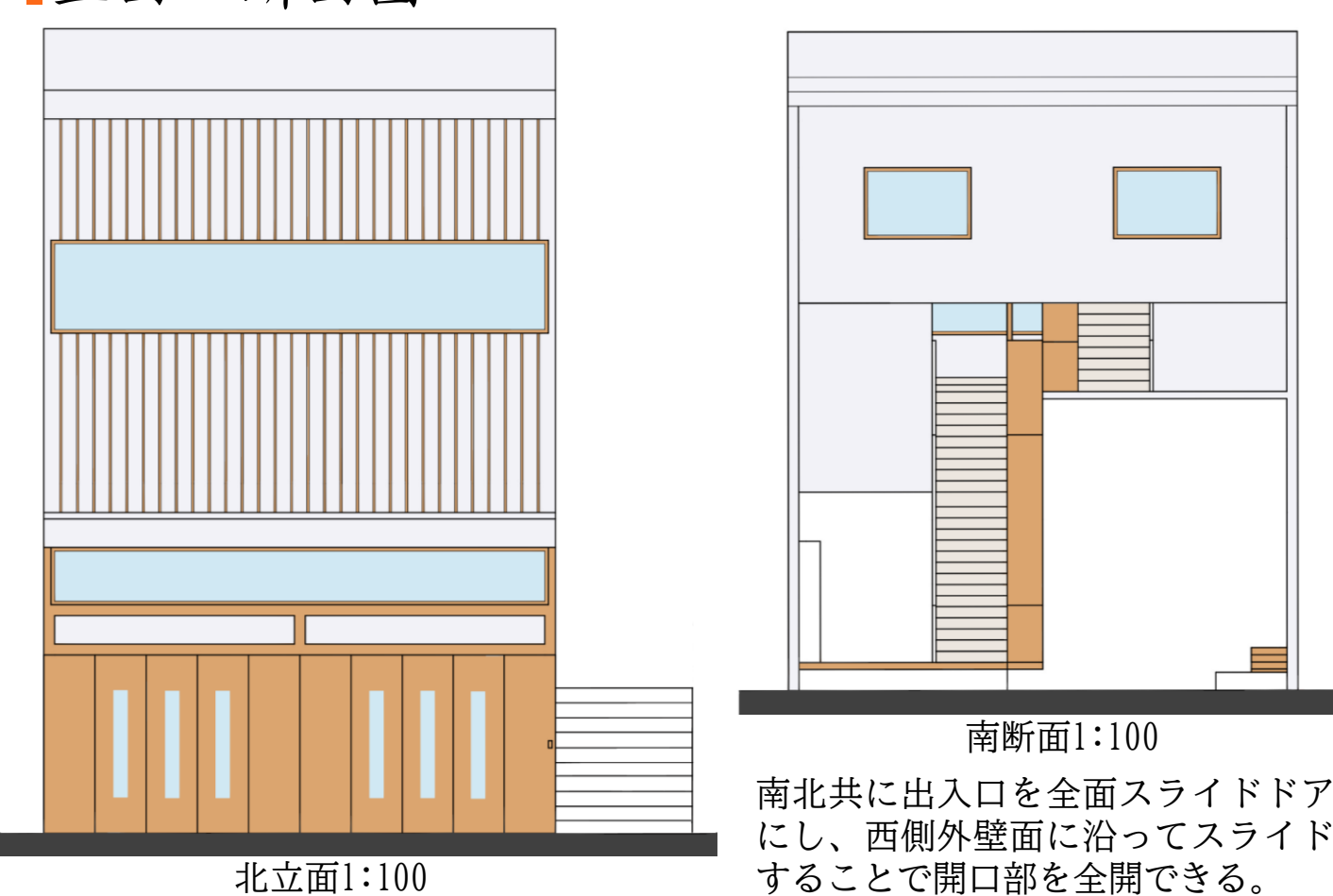
宇奈月の歴史

宇奈月温泉街は、元々桃の木が自生するだけの荒れた原っぱだった。温泉が湧き出ていることがわかり、そこに温泉地が作られた。さらに、トロッコ電車の営業開始によって多くの観光客が集まり、観光地として発展していった。今では日本一の透明度を誇る温泉として、多くの人々に愛される温泉街となっている。

富山の薬

江戸時代、突然激しい腹痛に見舞われた大名に、富山藩主・前田正甫公が携帯していた妙薬「反魂丹」を与えたところ、たちまち痛みは治まり、同席していた大名たちはその効き目に驚いて自国での販売を求め、全国各地に富山の薬が広がっていった。富山の薬は、江戸時代から人と人をつないできた。

立面・断面図



北立面1:100

南断面1:100

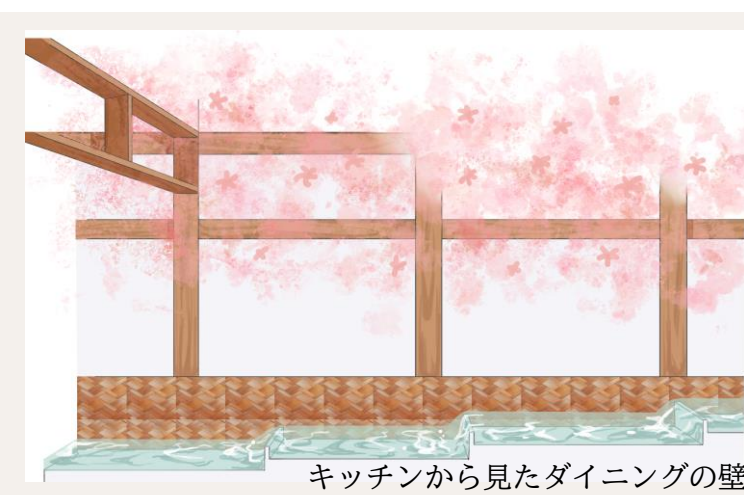
南北共に出入口を全面スライドドアにし、西側外壁面に沿ってスライドすることで開口部を全開できる。

家族構成

お父さん (35歳) 薬剤師
お母さん (32歳) 薬剤師
子供 (7才の双子) 小学生

面積表

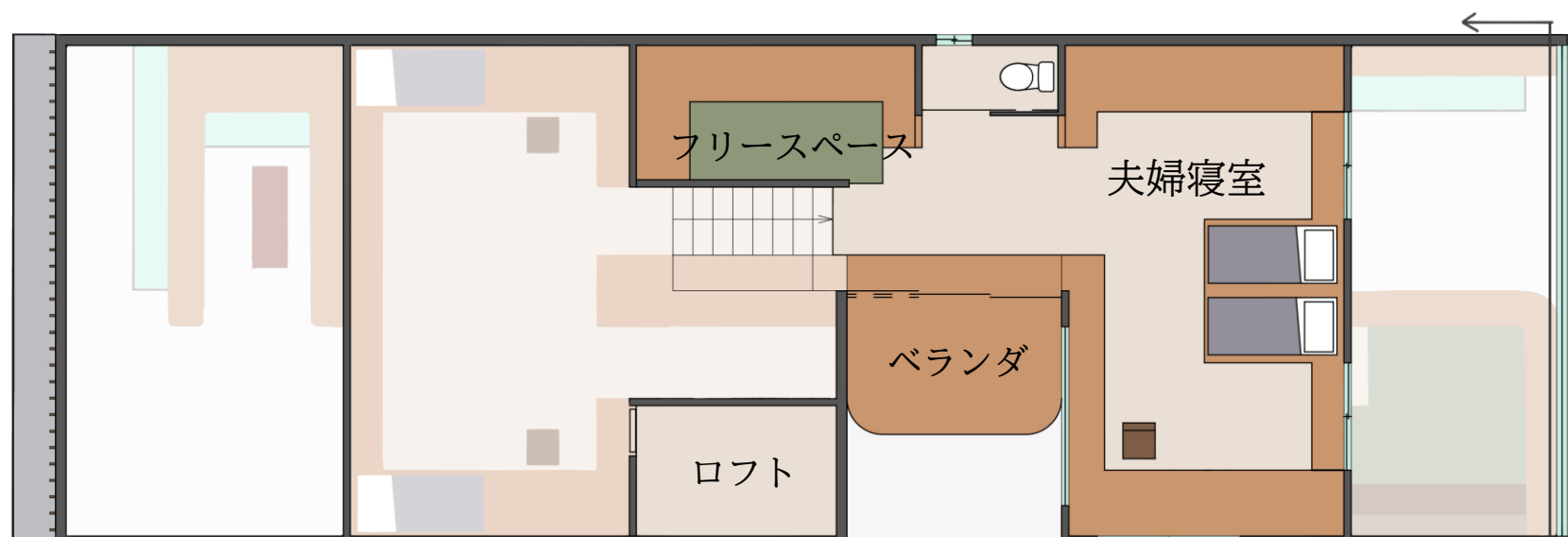
敷地面積	172.5㎡
建築面積	147.0㎡
1階床面積	147.0㎡
1.5階床面積	20.16㎡
2階床面積	33.068㎡
2.5階床面積	50.5㎡
延べ床面積	250.728㎡



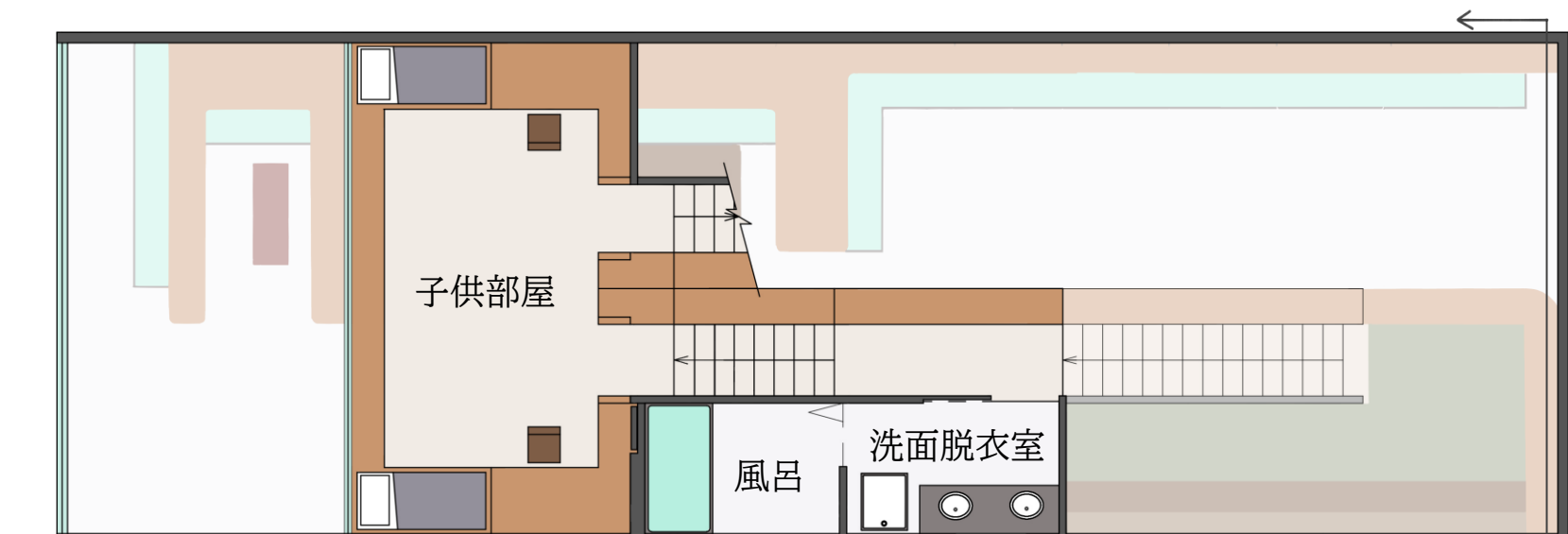
キッチンから見たダイニングの壁

家族の桜並木

店内の東側の壁は、壁面に黒部産の桜の木材を使用し、温泉街から見える黒部川対岸の桜並木を表現している。さらにその壁面には特産品である黒部へぎ板の親子矢羽根模様が貼られている。親子矢羽根模様では二種類の幅の木材を使用し、観光客と街に住む人々をつなげていることを表現している。



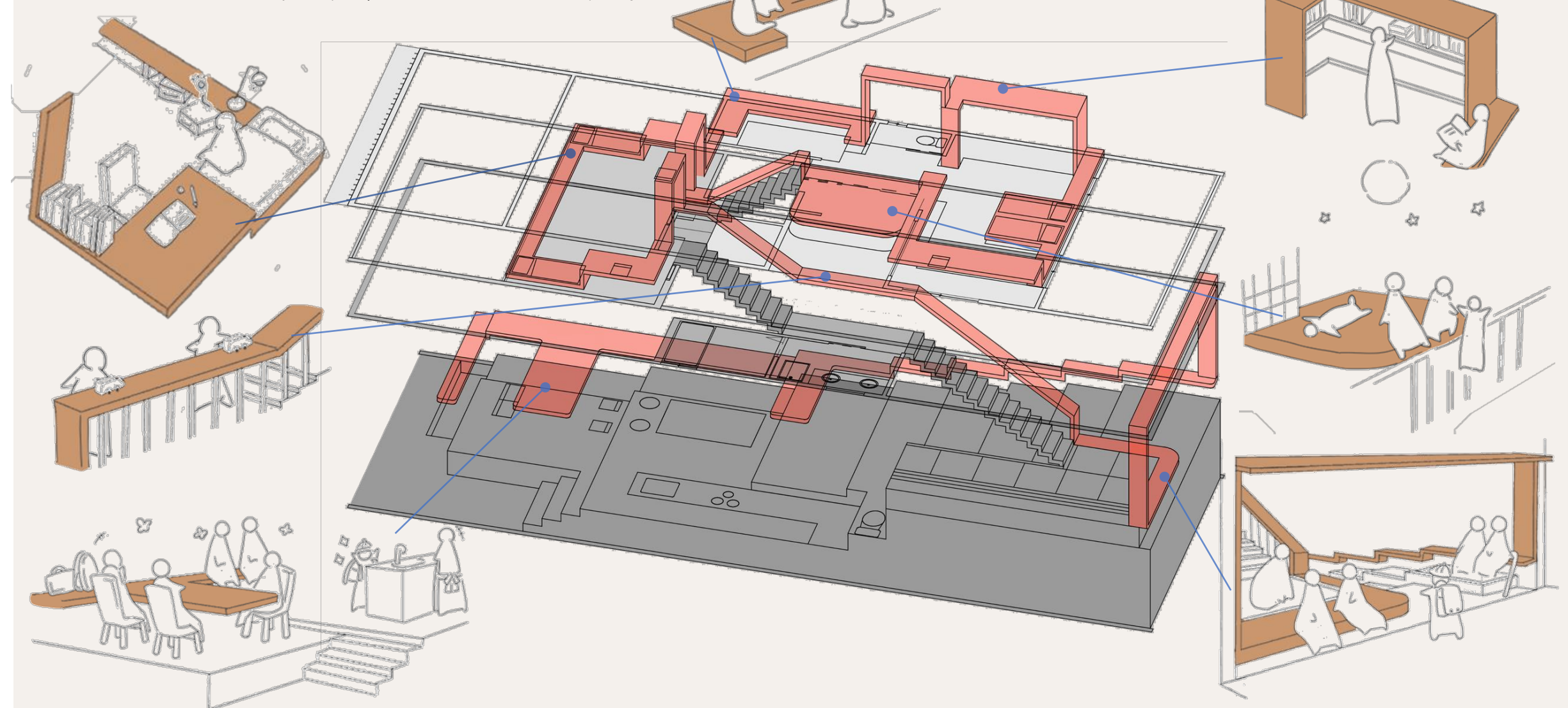
2.5階平面図 1:100



1.5階・2階平面図 1:100

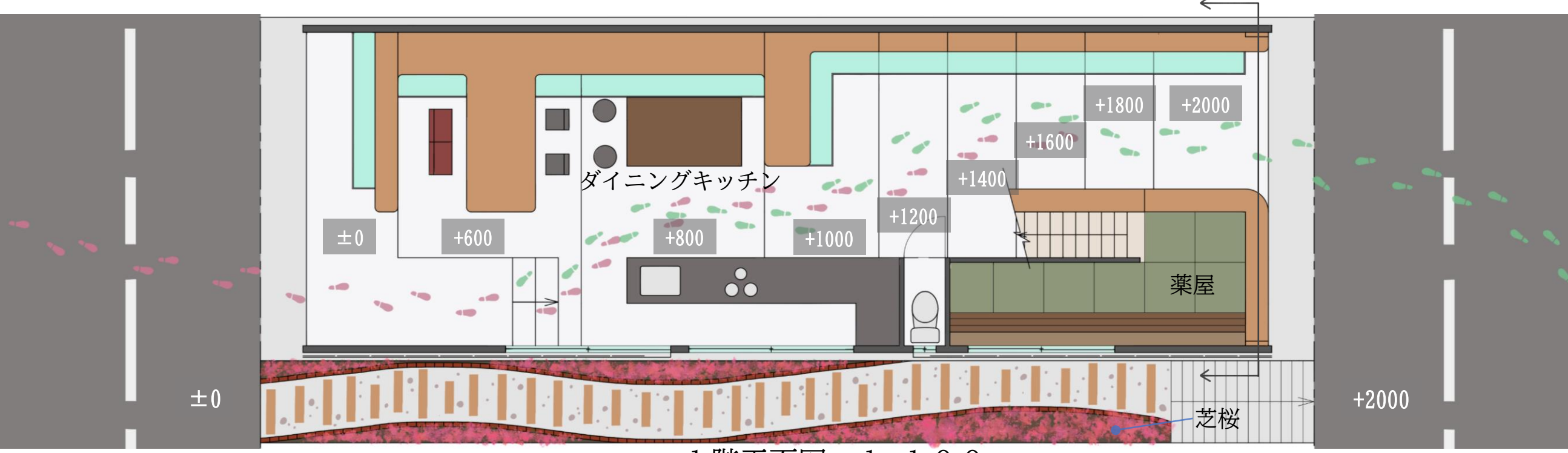
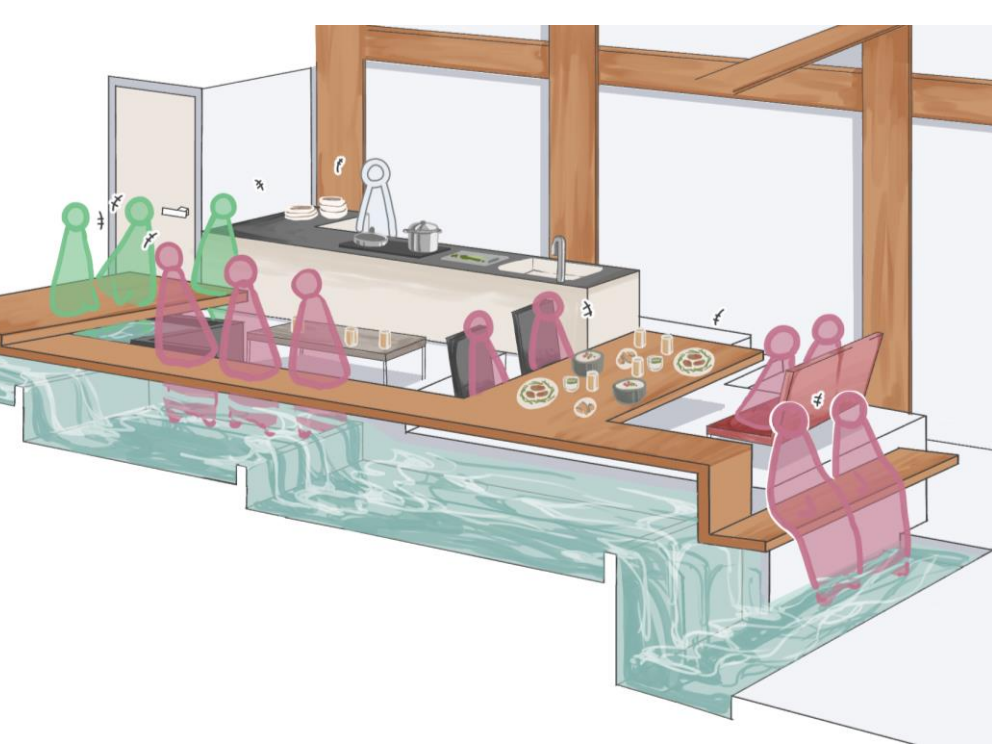
つなげる縁側

縁側は高さが変わることで、役割を変えながら家中を廻る。観光客、街に住む人々、住人、誰かが何処かで必ず触れている。縁側に触れているとき、別の何処かで縁側に触れている誰かとつながる。それは近所の顔見知りのおばちゃんかもしれない、遠くから来てくれた観光客の誰かかもしれない、もしかすると今仕事をしているお母さんや部屋で勉強している子供たちかもしれない。見えないところにも誰かとつながっていると感じられる安心感が、触れた人々に新たな出会いと温もりを与える。そんなつながりを求め、今日も人がやってくる。

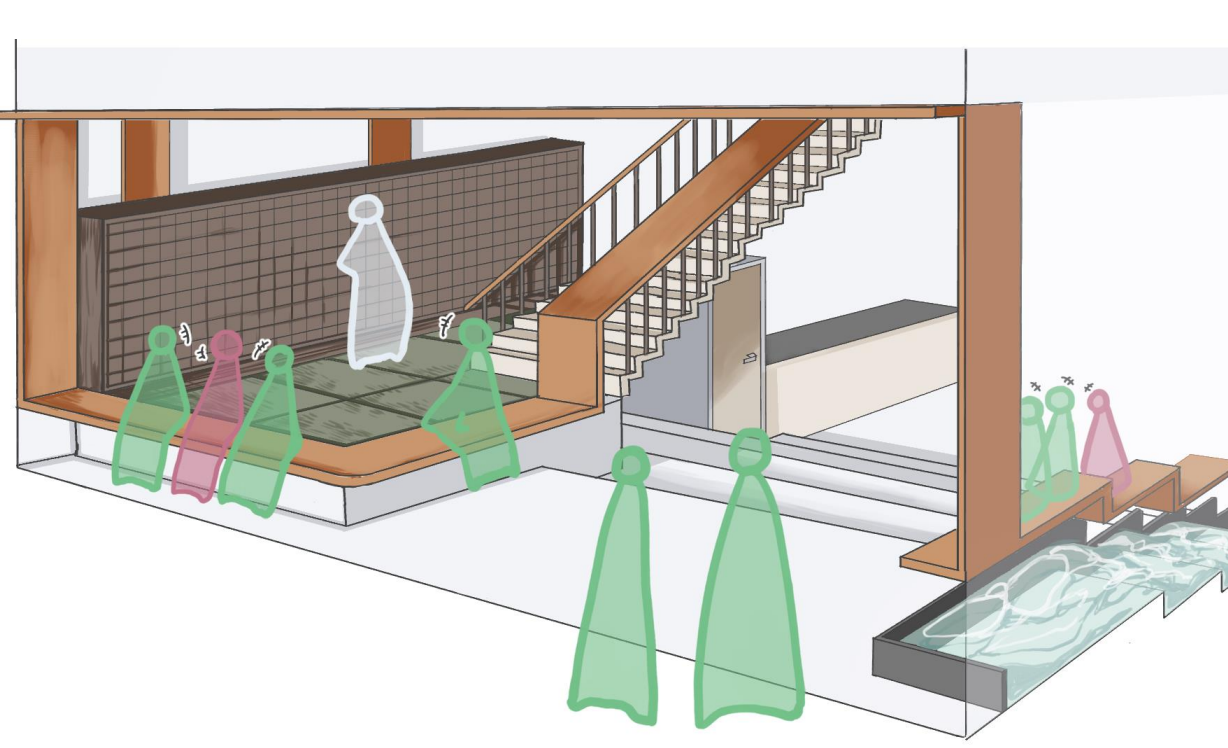


お母さんの薬膳料理

駅前通り側の玄関から入ると、観光客に開かれたダイニングキッチンが広がる。足湯に浸かりながら休める自宅のLDKのような空間が広がる。ここでは、宇奈月の山から採れた山菜や魚などを使った薬膳料理が食べられる。お母さんが季節や体調に合わせた料理を提供する。夜は家族のLDKに変わる。食事を通して観光客と街に住む人々に新たなコミュニケーションの場を提供する。



1階平面図 1:100



お父さんの薬屋

裏通りから入る薬屋は、街に住む人々に開かれた店である。街で働く人々や、今は店を閉じて街で暮らすお年寄りがちょっとしたよもやま話をしに訪れる。薬屋のお父さんと話し、その場で調合した漢方など、体調に合わせた薬を提供してもらえる。観光客に囲まれた街で、街に住む人々がいつでもコミュニケーションのとれる場を提供する。街に住む人々の生活を支え、繋げる、唯一無二の薬屋となる。